

「戦略的な定員割れと教職協働～身を切る決断で未来を拓く～」

開催日時：2018年12月7日（金） 18：30～19：30

情報交換会 19：30～21：00

講演者：松井寿貢 氏

学校法人石田学園 常務理事、広島経済大学 事務局長

参加者数：教職員 45名（うち会員校からの参加者：32名）

参加大学数 28校（うち会員校数：17校）

※「Salon De 大学コンソーシアム大阪」開催に先立ち、希望者には、18時より大阪経済大学のティールーム、グローバルcommons、会議室などの見学ツアーが実施された。

1. 講演概要

（1）広島経済大学の概要紹介と「戦略的な定員割れ」に至った背景

- ・松井講師が事務局長を務めておられる広島経済大学の歴史、規模、学部構成の紹介がされた。
- ・2013年入試において「戦略的な定員割れ」に舵を切るまでの主な要因として以下の3つが説明された。
 - ① 国の高等教育政策の動向
 - ② 少子化の進展
 - ③ 2013年時点の広島経済大学の評価
- ・「体力のあるうちに」改革を行うという理事長の判断により「戦略的な定員割れ」が実行された。

（2）入試改革

- ・2013年2月の入試判定会議から「定員確保から学力優先」に変更。
- ・「一般入試」と「センター試験利用入試」でも合格ボーダーラインを引き上げ。
- ・「戦略的な定員割れ」による学生数の減少による収入減を「将来への投資」と捉えることにする。



講演中の松井氏

(3) 教育改革

- ・「大学の責任」で「高くなった合格ラインを突破した学生に行き届いた教育」を提供するために「教育の質保証」を確実に実行することを併せて推進。
- ・教職協働による「カリキュラム・コーディネート会議（CC会議）」を設置。
- ・「職位や職種に関係なく対等の立場」をルールとし、「部分調和よりも、全体最適」を目指して議論を重ねた。
- ・CC会議の結果を会議翌日には学内で共有。

(4) 具体的改革施策

- ・「カリキュラム改正」、「成績評価の基準公表と可視化」、「厳正な成績評価と再試験」「ICカード出席登録システムの導入」、「進級制度の導入」などを実施。
- ・同時に「授業時間外の学生指導の強化」、「学生による学習アドバイスコーナーの開設」等の学生支援も強化。
- ・「女子学生のためのキャリア形成入門」等の女子学生支援により女子学生数増加も目指す。

(5) 改革の成果

- ・具体的な「戦略的定員割れ」の実施と併せて進められた教職協働による教育改革の成果について、松井講師から「平均修得単位数の推移」、「GPAの推移」、「文章読解・作成能力検定取得率」、「英語運用能力」等のデータを元に説明がされた。
- ・学内で収集される「教育の質」の変化についてのデータだけでなく、進路指導教員アンケート結果や各種受験産業メディアによる近年の評価も紹介された。

(6) 松井講師からのメッセージ

- ・講演の最後のスライドで、松井講師から「強いものが生き残るのではなく、進化するものが生き残る」というダーウインの言葉が紹介された。

(7) 質疑応答

- ・質疑応答は時間の関係で2名の方から、「高校からの評価」と「広島経済大学の職員数」についての質問があった。
- ・「(戦略的定員割れに対する)高校からの評価」は、改革初年度は、推薦入試などで卒業生を送ってくれていた高校からお叱りを受けることもあったが、3年目になると高校の

進路指導教員に広島経済大学の
「求める入学者の学力レベル」が理解され、
応援してくれるように変化してきた。



2. サロン参加者への「参加証」の授与

質問に答える松井氏

- ・講演、質疑応答終了後、大学コンソーシアム大阪
会員校からの参加者には、「参加証」が授与された。

3. 情報交換会

- ・情報交換会は、大阪経済大学事務局長室長の
大石部長様の開会の辞で始まった。
- ・大阪経済大学職員の方が、「おでん」を参加者に
取り分けて給仕くださるなどのご配慮のおかげで、
参加者同士の情報交換も弾んだ。



活発な情報交換を行う参加者

4. 第8回「Salon De 大学コンソーシアム大阪」参加者の感想

“戦略的定員割れ”、“身を切る決断”、講演テーマに並ぶ刺激的な単語に胸ざわつかせて参加した。参加者名簿には学長、事務局長といった経営責任者の役職が目立つ。単なる入試施策の経過報告ではないはず。損失と得た成果の具体は？決断をなし得た秘訣は？教職員との軋轢をどう乗り越えたのか…。胸には「？」が並ぶ。

講師の松井氏は、核心に対し一つ一つ丁寧に、包み隠さず、時にはジョークをも交えながらコンパクトにまとめて伝えてくれた。「定員割れ戦略」が奇策とならず、「教職協働による教育改革」が確たる成果を得たのは、経営トップの強い改革意識が先ずそこにあり、ゴールに導くために緻密に構成された施策がしっかりと噛み合い、それが教職員の意識に揺さぶりをかけた、その結果だったのか…。講演終了間際には、胸にストーンと落ちたところである。充実した60分間であった。

それはそうと、本年度から始まったサロンの講師の顔ぶれの多彩さと豪華さには驚嘆する。研修コーディネーターの見識と手腕のなせる業かと合点する。

(大阪樟蔭女子大学 事務部長代理 下山貴宏)

以上

(本報告書の「4. 参加者の感想」以外の文章の文責：大学コンソーシアム大阪 SD 研修コーディネーター 塩川雅美)